

令和6年度 第1回練馬区立生涯学習センター運営懇談会 会議要録（概要）

- 1 日時 令和6年8月23日（金） 午前10時30分～11時50分
- 2 場所 生涯学習センター 第一・第二会議室
- 3 出席者 長田委員、岡本委員、長富委員、田村（孝）委員、鈴木委員、田村（源）委員、押田委員
（練馬区）文化・生涯学習課長 （事務局）生涯学習センター所長、副所長
- 4 欠席者 井藤委員、川井委員、山本委員
- 5 傍聴者 なし
- 6 次第
 - (1) 文化・生涯学習課長挨拶
 - (2) 運営懇談会委員自己紹介
 - (3) 事務局職員紹介
 - (4) 正副座長選出
 - (5) 議題
 - ① 令和5年度事業結果報告について
 - ② 令和6年度事業結果報告（4月～7月）および事業予定について
 - (6) その他
- 7 配布資料
 - 資料1 令和6・7年度練馬区生涯学習センター運営懇談会委員名簿
 - 資料2 練馬区立生涯学習センター運営懇談会設置要綱
 - 資料3 令和5年度事業結果報告
 - 資料4 令和5年度施設利用実績
 - 資料5 令和6年度事業結果中間報告および事業予定
 - 資料6 令和6年度事業計画
- 8 会議の概要
 - (1) 文化・生涯学習課長挨拶
 - (2) 運営懇談会委員自己紹介
 - (3) 事務局職員紹介

(4) 正副座長選出

〈所長〉 本日は、令和6・7年度の任期最初の運営懇談会となります。座長選出まで進行を務めさせていただきます。

はじめに、練馬区立生涯学習センター運営懇談会について、練馬区立生涯学習センター運営懇談会設置要綱に基づき説明いたします。(要綱の説明)

続いて座長の選出です。運営懇談会設置要綱第3条第2項に「座長は委員の互選により選出する」と規定があります。本日、川井委員はご欠席ですが、川井委員からは、委員の皆様から座長継続をとのお声があれば、期待に沿えるよう頑張っていきたいとお話でした。事務局としては、文化芸術や生涯学習分野の活動を通しての実績やご経験があり、また直前まで座長を務めてこられた川井委員に、引き続き座長をお願いしてはいかがかと考えておりますが、委員の皆様はいかがでしょう。

〈委員〉 一異議なし (拍手)

〈所長〉 それでは、引き続き川井委員に座長をお願いしたいと思います。続いて、副座長の選出です。運営懇談会設置要綱第3条第2項の規定により、副座長は座長が指名することになっております。川井委員からは、自分が座長を務める場合、岡本委員に引き続き副座長をお願いしたいという話を伺っております。皆様、いかがでしょう。

〈委員〉 一異議なし (拍手)

〈所長〉 では、副座長についても、引き続き岡本委員をお願いしたいと思います。次第5以降は、副座長に進行をお願いいたします。

(5) 議題

①令和5年度事業結果報告

所長から資料3・資料4に基づき説明(内容省略)

②令和6年度事業結果報告(4月～7月)および事業予定について

所長から資料5・資料6に基づき説明(内容省略)

〈副座長〉 では、各委員からご意見をお願いいたします。

〈委員〉 縁ジョイ倶楽部は、職員の立ち合いの関係もあるかと思いますが、日曜日の開催がないようです。働いている方など、日曜日に来やすい方もいるのではないのでしょうか。現実的にできるかどうかは別として、日曜開催を検討してみてもよいの

ではと思います。

〈所長〉 今のところ団体側から日曜日開催の希望はありませんが、来年度以降、縁ジョイ倶楽部等の事業について、日曜開催についても検討していきたいと思います。

〈委員〉 今年、利用人数が増えているのは、コロナが終息した関係なのでしょうか。

〈所長〉 令和3年度はコロナの関係で参加者が減っていましたが、4年度から徐々に参加人数が戻ってきています。今年度は、まだ途中ですが、微増か横ばいの見込みです。コロナの関係で開催を見送っていた事業が、再開するものもあります。

〈委員〉 寿大学通信講座の人数には目標値等があるのか、それとも例年通り進んでいるから良いということなののでしょうか。

〈所長〉 寿大学通信講座は、令和6年度の登録者数は562名ですが、作品提出者数は毎月変動しています。令和6年4月の作品提出者数は387名でした。目標数値は特に設けていませんが、安定して行っている事業となっています。

〈委員〉 私が現役のサラリーマンだった時は、公共施設を利用する機会はありませんでした。現役世代にこうした施設があることを周知する方法を工夫して、公開講座や縁ジョイ倶楽部に参加してもらってはいかがでしょうか。

〈所長〉 委員のお話のように、現役世代は時間がなかなか取れないようですが、縁ジョイ倶楽部の講演会は、普段の利用者よりも若い層が参加しています。その方々に、5年、10年先を見据えていただけるような内容でできたらと思っています。PR方法としては、センター以外の施設にもチラシを置くなど工夫していますが、講座等については、やはり区報を見て参加する方が多いようです。

〈委員〉 サークルの皆さんに話を聞くと、会員がなかなか増えない状況のようです。何かもう少し間口を広げる方法があればと思っています。

〈課長〉 行政分野全般として、現役世代を集めることはどの分野においても課題となっているようです。ご指摘のとおり、仕事や子育てで慌ただしく、自分の時間を使って活動を行うのは難しいと思います。文化芸術を楽しむことは、人生においてどれだけ豊かな生活を送れるかというひとつの指標となります。様々なジャンルの中

から自分の好きなものを見つけ、そこから自分の生活の拠り所となる経験を早い段階ですることがとても重要だと考えています。文化センターでは、幼少期から芸術に触れる経験をさせたいと思えるようなイベントを行っています。美術館では、展覧会以外にも、教育普及事業として、工作講座や、アーティストから美術を教わる体験講座を開催しています。ふるさと文化館では、社会科の中で郷土史を学ぶきっかけづくりを行っています。そうした経験をなるべく早い段階でもらうことで、現役世代の文化芸術への関心を高め、その延長として、退職時やその前から、これから何を始めようかというときに、生涯学習センターのような施設の中で、様々な方が参加できる受け皿を作っていくことは非常に重要なことだと考えています。

<副座長> 私は、きっかけは物理的なものと精神的なものがあると思います。物理的なきっかけは、生涯学習センターの認知度を高めるということです。精神的なきっかけとしては、作品との触れ合い等を通じ、子供を介してその親や家族へと刺激を与えていく、そうした口コミでつながっていくような仕組み作りも大事なのではないかと思います。

<委員> 現役世代の人はセンターのことをほとんど知らないと思うので、センターに行けば何か興味深いことがある、といった周知を行ってはどうか。

<課長> 先ほど美術館やコンサートの例を出しましたが、参加者は体験する側、自分が行う側と、異なった立ち位置があります。文化センターや美術館は体験する側で、生涯学習センターの活動はまさに自分たちが行う側です。だからこそ、体験として深まっていく過程をPRし、それは生涯学習センターが他の施設とは違う特徴的な部分なので、うまく見せていくことで生涯学習センターとしてのブランド力を高めていきたいと考えています。

<委員> 昨年、東京都主催の、65歳以上の人が週1回学習する場に半年通っていました。1クラス25人で、講座修了後は就職をする人もいれば、ボランティア活動をする人、起業をする人もいます。私たちのクラスでも、月に一度集まろうとしているのですが、集まる場所が見つかりません。公共施設は、恒常的に活動を行っている団体でないと手続きが煩雑で部屋が借りにくいのです。いろいろ活動する団塊の世代が増えているので、場所の提供があると良いのではないかと思います。また、そうして活動する方たちが生涯学習センターを利用していけば、口コミで利用者が増えていくのではないのでしょうか。

<所長> 生涯学習センターでは、月に1回程度のご利用でも公共施設を予約するため

のカードの発行が可能です。また、カードを作成しない単発の利用でも、1回利用といった形で施設をご利用いただけます。

<委員> 図書館でも活かせる内容ではないかと思いました。「知りたい・深めたい・活かしたい」という生涯学習の学びの循環があります。深めた後、活かしていく拠点が生涯学習センターだと思います。図書館も、自分たちの学んだことを活かしていく場所として、朗読等のボランティア活動やサークル活動の支援等を行っています。先日の児童合唱団演奏会では、大勢の卒団生が観客の会場整理等で活躍していました。ここで学んだ児童生徒が、10年経っても生涯学習センターのために活動していることに感動しました。

<副座長> 私はサークル作品展の活動を行っていますが、練馬図書館と生涯学習センターの間には壁があるように感じます。図書館で夏休みのイベント等を行うときに、センターの展示も見てもらったりしてはどうでしょうか。今後もっと図書館と友好的な関わりができればと思っています。

<委員> 春日町図書館には、ギャラリーに作品展示スペースがあります。また、活動に必要な資料がある場合、図書館のレファレンスサービスをご利用ください。

<委員> 私は、サークル文化祭の際、図書館利用者に呼び込みをして参加してもらっています。アンケートを見ると「サークル文化祭の存在を知らなかった、声をかけてもらってよかった」等とありました。図書館とも、もっとうまく連携が取れればと思います。

<課長> 美術館も、同じ建物の1階が貫井図書館、2階が美術館という構造になっていますが、9月に「街でアートを楽しむ」ということで、「美術館×図書館×商店街×まち」と、それぞれが一緒になってアートマルシェを開催します。店舗の方々には美術館前の緑地でマルシェとして協力してもらったり、2階にある常設展示室では読み聞かせを行ったりと、一緒にやっていくために様々な工夫をしています。そうしたことが縁で、展覧会開催時に、図書館において関連図書での特殊展示が行われるなど、連携できるきっかけづくりを意識して行っています。美術館自体施設の色が強いので、うまくマッチングできているようです。生涯学習センターでも同じようにできるかはわかりませんが、同じ建物にあるということは、創造的なことが生かせる強みもありますので、より良く行っていければと思います。

<委員> ある区では、図書館主催講座を、併設する別の区立施設の部屋を使用すると

いったように、両者がうまく連携してイベントを行っているようです。

〈所長〉 生涯学習センターでも同様のことを行っています。今日は、美術工芸室で図書館主催の講座を行っています。今後、更に連携を進めていければと思います。

〈委員〉 私は定年後から社交ダンスを始めましたが、社交ダンスは男性メンバーを集めるのが困難です。年に一度、サークルで無料講習会を行っているのですが、チラシの置き場所が生涯学習センターしかありません。区報にも半年に1回募集案内を載せていますが、会員増になかなか結びつきません。仲間を増やすには、まず観てもらうように自分たちが努力することが大事だと思います。

〈委員〉 私は、民謡連盟とサークル文化祭でセンターに関わっています。民謡連盟は、区民文化祭で年2回の発表、盆踊り講習会を年1回、二日連続で行っています。サークル文化祭も、このまま継続できればと思います。

(5) その他

〈課長〉 本日皆様からご意見いただいた様々な内容には、直ちに動けることもあれば、来年度の事業計画に当たって参考にさせていただきたい内容もありましたので、事務局で検討し、形になるものについては、次回以降の運営懇談会で、改めてご相談、ご報告したいと思います。

〈副座長〉 区民が生涯を通じて学習できる体制を作っているのが生涯学習センターです。いろいろ自由にやりたいことを選べるのは素晴らしいことです。ただ、これは知識です。知識は大事ですが、縁ジョイ倶楽部講演会では、知識よりも考え方を身につけるような、活動への意欲が湧くような講演会にしてほしいと思います。

〈所長〉 生涯学習のきっかけや意欲につながる内容の講演会にしたいと思います。

〈副座長〉 昨年度の講演会では、講演者とのすり合わせがもう少しあれば、こちらの意図がもう少し伝わっていれば、と思いました。

〈所長〉 反省材料として、今年度の講演会に活かしていきたいと思います。

〈副座長〉 次回の運営懇談会は、来年3月の開催予定となっています。以上で本日の運営懇談会を終了いたします。